



# GOOD DESIGN AWARD 2026

2026年度グッドデザイン賞

審査委員チュートリアルブック



この度はグッドデザイン賞審査委員をお引き受けくださりまして誠にありがとうございます。  
グッドデザイン賞では「よいデザインに込められた思想やしくみ」などを世の中に伝えていくと同時に、それらデザインから導き出される新たな可能性を発見・伝達することにより、次なる社会への推進役となるべく活動しております。審査委員の皆様におかれましては、その立役者として審査のみならず当会が企画する様々な場においてお力添えいただきたいと考えております。

本書ではグッドデザイン賞の成り立ちや考え方、実際の審査の仕組みなどについてまとめております。ぜひご一読くださいますようお願い申し上げます。

## 目 次

<b>1</b>	<b>グッドデザイン賞全体の仕組みとスケジュール</b> .....	<b>4</b>
<b>2</b>	<b>審査委員のミッション</b> .....	<b>4</b>
<b>3</b>	<b>審査の考え方と方法</b> .....	<b>6</b>
<b>4</b>	<b>審査の詳細</b> .....	<b>7</b>
	4-1. 基本的なルール	7
	4-2. 一次審査	7
	4-3. 二次審査	9
	4-4. 評価コメント等の執筆	14
	4-5. 受賞祝賀会への参加	17
	4-6. その他	17
<b>5</b>	<b>審査委員会推薦</b> .....	<b>18</b>

## ビジョンに資するデザイン

グッドデザイン賞審査委員長の任を受けるにあたり、改めて「いいデザインとは何か？」について考えてみました。私なりに整理すると、まず二つの要件が挙げられると思います。

一つ目の要件は、本能的に美しいと感じるかどうか。人が直感的に惹かれる造形や佇まい、使い心地。それは単なる装飾ではなく、機能や合理性を含んだ「美しさ」である必要があります。

二つ目の要件は、社会性があるかどうか。環境への配慮にとどまらず、人権、労働、物流、産業構造など、そのデザインが社会とどのように関わっているのか。デザインは常に社会の一部であり、社会への態度を内包しています。

ここまでが、現時点で共有されている「いいデザイン」の主な要件ではないでしょうか。しかし私は、この二つだけでは不十分なのではないかと感じています。

三つ目の要件は、ビジョンに資するものであるかどうか。それは企業や組織の存在意義と、具体的な事業活動をつなぐ力のことです。前提となるビジョンが異なれば、あるべきデザインは違うのではないかと。デザインはビジョン・世界観・プロダクトを整合性の取れた形につなぎ合わせるものであり、ユーザーに対して深い理解を促すコミュニケーションの役割をも担っています。

この視点が、これまでのデザイン評価において十分に共有されてこなかったのではないのでしょうか。そしてこの問題は、デザインだけの力では解決できません。そもそもビジネスサイドが明確かつ解像度の高いビジョンを描いていなければなりません。ビジネスサイドとクリエイティブサイドの協働によってしか、本質的には乗り越えられない問題だと考えています。グッドデザイン賞が、デザインに関わる人だけの場ではなく、ビジネスサイドとクリエイティブサイドが対話し、協働する場となれるよう、力を尽くしていきたいと思います。

応募される皆さまもグッドデザイン賞という機会を使って、自社のあるべき姿＝ビジョンを再考するきっかけにいただけると嬉しいです。

2026年度グッドデザイン賞 審査委員長 中川 淳

## 探究とともにかたちづくり

私たちが生きる現在は、過去と未来とをつなぐ連続のなかにあります。これまでに重ねられてきた多くの探究のうえで、私たちはいかにしてさらなる創造の営みを継続していけるのでしょうか。デザインが担う役割がより広く、深くなっている現在、この先に向けた提案もまた丁寧かつ積極的に行われていくことの重要性を改めて感じています。

近年、さまざまな経験の蓄積によって課題に対する解決への道筋が速やかに示される場面も増えてきました。しかし、人や社会のための創造的な思考や活動とは、固定された枠組みに容易に収まるものではなく、即時的な解を求めにくい状況のなかにこそ見落としてはならない示唆が潜んでいることを感じます。だからこそ、各社、各人が自らの立ち位置や専門性を強みとして身近な対象からより広い状況へと洞察を広げていく、その力強く継続的な歩みによってもたらされる環境や事業のあり方にも注目したいと考えています。

また、個々の状況や異なる領域を柔軟に結びつけることもデザインが担う重要な役割の一つです。プロジェクトに関わる多くの関係者が対話を重ね、私たちを取りまく環境をいかに統合的な視点でかたちづくっていけるのか。さらには、そうした試みを支える背景や過程を広く伝えていく情熱と勇気も、忘れてはなりません。

社会のこの先に向けたビジョンをはじめ、想いを推し進める論理的な思考と現代の生活者としての感性、そして事業としての視点を併せもった躍動的な活動を通じて、デザインの幅広い可能性が浮かびあがることを期待しています。本年度のグッドデザイン賞を通じて、多くの皆さんと出会えることを願っています。

2026年度グッドデザイン賞 審査副委員長 川上 典李子

## 美しいかたち

デザインは、混沌とした社会に「美しいかたち」をつくる営みです。ここでいう「かたち」とは、もちろん物理的な形に限ったものではありません。地域のかたち、事業のかたち、暮らしのかたちなど、分散していた要素を結び、輪郭を与え、私たちが手触りをもって実感できる一つの確かな秩序として立ち上げられた状態のことです。

いま、社会が直面している課題の多くは、皮肉にも合理性や効率性といった、個々の立場での正しさを信じて進めてきた、局所最適の積み重ねの結果でもあります。正しさは強力な基準ですが、「合成の誤謬」として知られるように、個別の正しさを足し合わせても、全体としてはむしろ問題を引き起こすことが多くあります。環境問題や社会の分断も、誰かの悪意によるものではなく、善意ある人々の正しい選択の集積が生み出していることもまた現実なのです。

一方で美しさとは、要素同士の関係性が整い、全体として無理なく機能している状態に宿る性質です。色や形の均衡だけでなく、個人の情熱や組織のビジョンと事業性、現場の切実さと地球規模の課題といった、相反する価値を引き受け、たとえ不完全な部分があっても、なお破綻せずに均衡を保つ、その全体性や調和に、人は本能的に美しさを感じるのではないのでしょうか。

数値で測れる正しさにとどまらず、計測を超えた先にある調和の質、つまり美しさに向き合うことが、いま私たちには求められています。美しさと聞くと、感覚的なものだと反発を覚えるかもしれません。しかし「美しいかたち」をつくらうとする姿勢は、単なる審美的な志向ではなく、矛盾を包み込みながら、社会の中にしなやかな秩序を丁寧に編み上げようとする態度そのものです。それはモノのデザインにも、コトのデザインにも共通しています。バラバラになった正しさを、再び統合する知性として、デザインの力が問われているのです。分野を超えて、手触りのある「美しいかたち」に出会えることを心から期待しています。

2026年度グッドデザイン賞 審査副委員長 鈴木 元

## 想像力を灯すデザイン

静かに存在してきた、もの。ゆっくりと人を繋いできた、しくみ。それらは分けて語ることができるのでしょうか。私たちの社会を見渡すと、ものとしくみは絡み合いながら「デザイン」されています。ものがあるからしくみが生まれ、しくみがあるから、ものが生まれているとも言えるでしょう。そして、そのデザインが立ち上がるまでには、仕事に携わる人たちや企業が、そのものに触れる誰かを想い、多くの時間をかけてきました。積み重ねた試行錯誤が、私たちの社会生活を静かに支えてきたのだと思います。

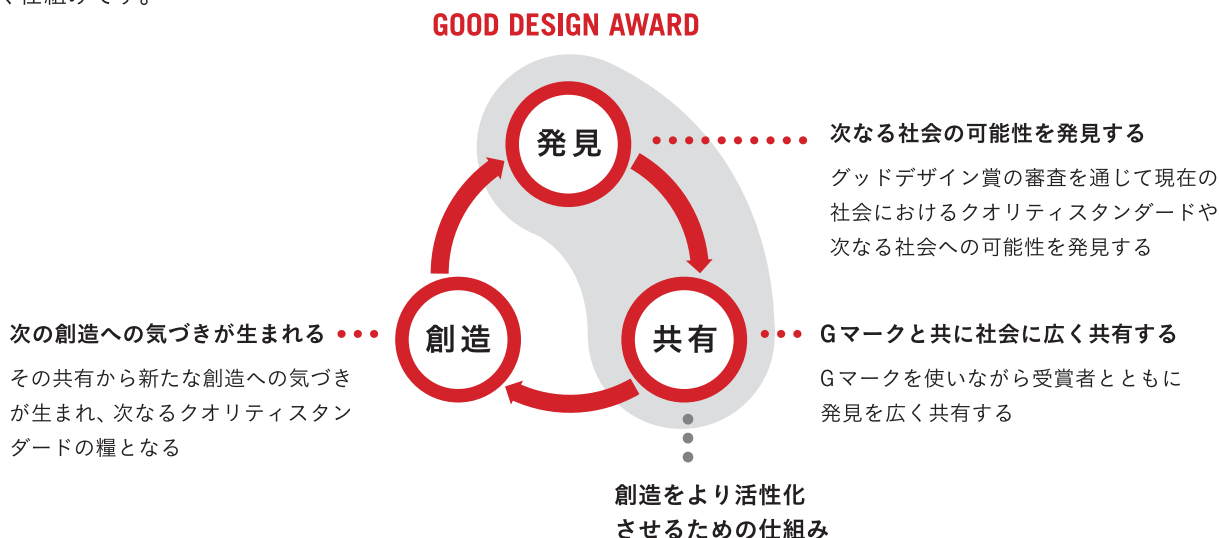
これまでグッドデザイン賞は、70年にわたり、日本で暮らす人々の経済活動とともに歩み、応募者の皆さまとデザインとはどのようなものなのかを考え、伝えてきました。しかし、急速に変化する社会の中で、見落としているものや、見えなくなっているものはないのでしょうか。私は、見過ごされがちな小さな配慮から生まれたものや、静かに人をつなぐしくみにも目を向けたいと考えています。近年、大賞を受賞したプロジェクトには、その本質である「誰かのために」という視点が、より鮮明に現れているように感じています。分断や不安が広がる時代だからこそ、目の前の隣人だけでなく、まだ見ぬ誰かのことを想像することが大切です。これは、デザインという仕事に関わる人たちの職能とも言えます。

そのうえで、これからのグッドデザイン賞の役割は、いまデザインができること、できないことを立ち止まって見渡し、応募者同士のつながりを育む場となること、そして互いを結び直す橋であることだと考えています。そうした新しい挑戦を重ねながら、これからの社会を見つめ、すでに芽吹きは始めている新しい経済活動の小さな兆しと出会うことを期待しています。人と人のあいだに、新しい想像力を灯すデザインを、審査委員一同、お待ちしております。

2026年度グッドデザイン賞 審査副委員長 原田 祐馬

# 1 グッドデザイン賞全体の仕組みとスケジュール

グッドデザイン賞は、様々に展開される事象の中から「よいデザイン」を選び、顕彰することを通じ、社会全体をより豊かなものへと導くことを目的とした総合的なデザインの振興活動です。グッドデザイン賞は単に「よいデザインを選ぶ」のではなく、以下の3つの循環を通して応募者とともに協働することにより、次なる社会の創造へ繋げていく仕組みです。



## グッドデザイン賞の種類と位置づけ



## 2 審査委員のミッション

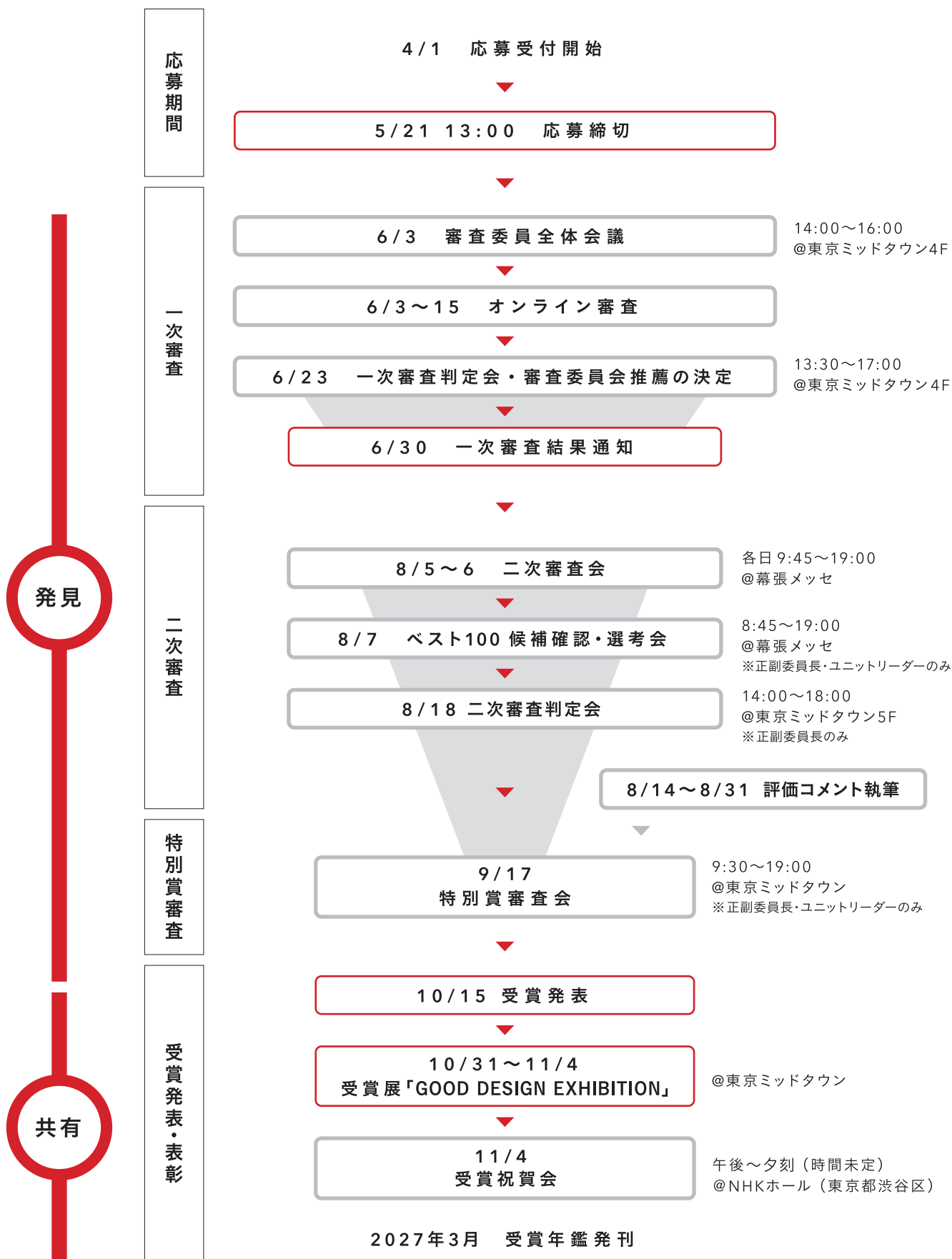
**発見** = 審査

- グッドデザイン賞の審査（6～13ページ参照）
- グッドデザイン・ベスト100 および 特別賞の審査（11～13ページ参照）  
※リーダーのみ
- 審査委員会推薦候補の推挙（18～20ページ参照）

**共有** = 発表・表彰 ほか

- 審査の評価およびアドバイスコメントの執筆（14～17ページ参照）
- 受賞祝賀会への参加（17ページ参照）

おもなスケジュール



### 3 審査の考え方と方法

#### 【グッドデザイン賞の理念】

グッドデザイン賞では、「優れたデザイン」の志向すべき理念として以下の5つを挙げています。

人間 (HUMANITY)	もの・ことづくりを導く創発力
本質 (HONESTY)	現代社会に対する洞察力
創造 (INNOVATION)	未来を切り開く構想力
魅力 (ESTHETICS)	豊かな生活文化を想起させる想像力
倫理 (ETHICS)	社会・環境をかたちづくる思考力

#### 【審査の基本的な考え方】

1. グッドデザイン賞ではデザインを「人と社会、自然環境との調和を常に考え、目的を見出し、その目的を達成する計画を描き実現化する行為」と考えます。
2. デザインに込められた思想やしくみが「今後の社会において起点となりうるものであるか?」を最重要視します。
3. 社会を推進することを目的に「今後の展開への期待や秘められた可能性」も含めて審査します。

#### 【審査の視点】

これらをもとに「人間」「産業」「社会」「時間」という4つの視点から応募対象を観察し、総合的に判断してください。

<b>人間的視点</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 使いやすさ・分かりやすさなど、ユーザーに対してしかるべき配慮が行われているか</li><li>○ 安全・安心・環境・身体的弱者など、信頼性を確保するための配慮が行われているか</li><li>○ ユーザーから共感を得るデザインであるか</li><li>○ 魅力を有し、ユーザーの創造性を誘発するデザインであるか</li></ul>
<b>産業的視点</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 新技術活用や創意工夫によりたくみに課題を解決しているか</li><li>○ 的確な技術・方法・品質で合理的に設計・計画されているか</li><li>○ 新産業、新ビジネスの創出に貢献しているか</li></ul>
<b>社会的視点</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 新しい作法、ライフスタイルなど、新たな文化の創出に貢献しているか</li><li>○ 持続可能な社会の実現に対して貢献しているか</li><li>○ 新たな手法、概念、様式など、社会に対して新たな価値を提案しているか</li></ul>
<b>時間的視点</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 過去の文脈や蓄積を活かし、新たな価値を提案しているか</li><li>○ 中・長期的な観点から持続可能性の高い提案が行われているか</li><li>○ 時代に即した改善を継続しているか</li></ul>

#### 【審査のウエイト】

グッドデザイン賞に応募される対象には大きく分けて「十分な実績を積んだ改善型」と「全く新しい新規型」の2種類があります。改善型については「デザインの適切性」を重視し、新規型については「将来の可能性」を重視して審査を行ってください。ただし、新規型においてもデザインとしての品質や魅力を伴わないと判断する場合はグッドデザイン賞にはなりません。

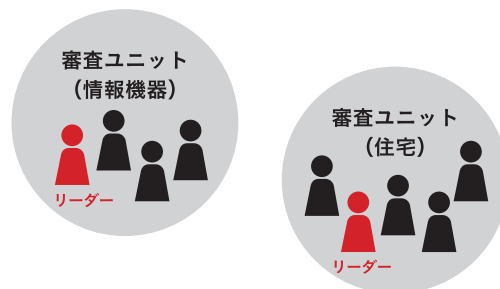


## 4 審査の詳細

### 4-1. 基本的なルール

#### 1. 審査ユニット

グッドデザイン賞の審査は、1チーム4～6名からなる「審査ユニット」を組み、そのチーム毎に割り当てられた応募対象を審査します。それぞれの審査ユニットには取りまとめを行う「リーダー」をおきます。リーダーは審査委員長・副委員長が選任します。



#### 2. 自身が関与した対象への審査介入禁止

審査委員長、審査副委員長、審査委員は、審査委員自身がデザインまたはコンサルティングした審査対象を審査することはできません。関連情報の提供を含め、その対象の審査に関わることを一切禁止します。

#### 3. 守秘義務

すべての審査委員は、審査開始以前に主催者に守秘義務に関わる誓約書を提出し、審査対象に関わる機密情報ならびに審査経緯など、審査を通じて知りえた秘密情報を第三者に漏らすことを一切禁止します。

### 4-2. 一次審査

#### ■ 審査委員全体会議

今年度の全体方針や具体的な審査方法、方針等を確認するための会議です。

お願い事項

##### 1. 審査方針の策定

担当ユニットに応募された対象のリストを確認し、リーダーを中心にディスカッションを行った上で、審査の方針を策定してください。

##### 2. ヒアリング審査実施方針の検討

審査委員会が必要と認める応募対象に関してのみに、説明ないしはプレゼンテーションを求める「ヒアリング審査」を実施します。ユニットとしてヒアリング審査を実施するか否か、実施する応募対象の選び方、実施の方法などについて検討し、一次審査判定会の際に決定できるよう準備をお願いします。

##### 3. 審査委員会推薦対象の検討

審査委員会推薦候補のリストを確認し、一次審査対象を見た上で、さらに推薦候補があるかどうか、検討してください。

#### ■ オンライン審査

一次審査判定会に向けた個人審査です。期日までに「審査サイト」に個別でお伝えするIDとパスワードでログインしていただき、審査をお願いします。

お願い事項

##### 1. 「○×」の評価入力 (必須)

担当ユニットの応募対象情報を確認の上、審査方針および審査の視点と照らし合わせた上で、各応募対象に「○×」の評価を記入してください。

##### 2. コメントの入力 (任意)

「○×」の記入と併せて他の審査委員に対して伝達したいことがある場合は、その内容をコメント欄に記入してください。

## ■ 一次審査判定会

「二次審査として現品を審査する必要性のあるものを抽出すること」を目的に、一次審査の可否の判定を行う会です。

お  
願  
い  
事  
項

### 1. 一次審査の可否判定

リーダーを中心にディスカッションを行った上で、各応募対象の一次審査結果を確定してください。

### 2. ユニット移動対象の検討

応募対象のリストを確認した上で、「審査ユニットを移動させた方がよい」と判断できるものについては、移動予定先の審査ユニットと相談の上、その方針を決定してください。ただし、応募されたカテゴリーは「重視して欲しい点に関する応募者からの宣言」でもあるため、なるべくこの意志を尊重してください。ユニット移動に関しては以下の基準をもとに行ってください。

#### A. 応募対象の内容および主旨が担当する領域と明らかに違うもの

#### B. 当該ユニットでは評価が期待されないが、他のユニットでは評価される可能性があるもの

### 3. 追加資料を求める対象、または特別な審査を行う対象の決定

ヒアリング審査や現地審査、または動画等による追加資料の確認など、特別な審査を行う必要が認められる応募対象を決定してください。

### 4. ヒアリング審査・現地審査に向けた事前調整

ヒアリング審査・現地審査を実施する場合は、日程と確認ポイント等について調整を行います。

### 5. 審査委員会推薦対象の決定

審査委員会推薦候補のリストを確認し、リーダーを中心にディスカッションを行った上で、ユニットとして審査委員会推薦に選定する対象を4件以内で確定してください。

一  
次  
審  
査  
の  
判  
断  
基  
準

グッドデザイン賞の審査は「応募対象の現品を確認して判断する」ことを原則としていますので、一次審査は「明らかにグッドデザイン賞の水準ではないと確実に判断されるもの」のみを不通過としてください。判断基準は以下です。

#### 【不通過判断基準】

#### 1. グッドデザイン賞の理念から逸脱している

社会的な道義や倫理に反するものや社会的な誠実さに欠けるものなどについては不通過としてください。

#### 2. 応募ルールに抵触する恐れがある

「2027年3月末までにユーザーが購入・利用できる」という応募条件等を明らかに満たし得ないと推測できるものは不通過としてください。

#### 3. 価値や品質が明らかに低いと推測されるもの

品質や価値の程度が明らかに低いと推測されるものは不通過としてください。

## ■ 事務局による判定結果の確認

一次審査判定会の結果について、事務局がその妥当性を確認します。

審議事項が生じた場合には、各審査ユニットで再度協議の上、審査結果を確定します。

## 4-3. 二次審査

### ■ 二次審査会

審査会場に設置された応募対象の現品（搬入が困難な対象は代替物）を確認し、グッドデザイン賞の合否判定を行う会です。

#### お願い事項

#### 1. 二次審査の合否判定

二次審査を通過した対象は、審査確定会を経てグッドデザイン賞受賞内定となります。応募対象の現品確認やヒアリング審査（後述）等を踏まえ、各応募対象の二次審査結果を確定してください。

#### 2. ベスト100候補の選定

グッドデザイン賞では「未来を示唆するデザイン」として評価の高い受賞対象100件を「グッドデザイン・ベスト100」として公表し、この中から特別賞を選出します。二次審査会の結果を踏まえ、各ユニットから上位5件をグッドデザイン・ベスト100候補として選出してください。また、上位1件を金賞候補として選出してください。さらに、グッドフォーカス賞各賞に値するものがあれば候補として選出してください。

#### 3. 不通過対象のチェック

不通過が確定した対象について、各審査シートに印刷されたチェックリストにチェックを入れてください。

#### 4. 評価コメントの執筆担当決め

グッドデザイン賞を受賞したすべての対象について「どこがよいデザインであるか」を審査委員の評価コメントとして公開します。執筆する担当の割り振りを行ってください。

#### 5. グッドデザイン・ベスト100候補・特別賞候補の確認および選定（リーダーのみ）

審査会3日目に審査委員長・副委員長、各審査ユニットリーダーによってグッドデザイン・ベスト100候補・特別賞候補の確認を行います。各リーダーは自身のユニットの各候補について、選定理由を説明してください。その後、合議でベスト100および特別賞候補を選定します。

#### 審査方法

二次審査会では様々な特性を持つ応募対象の現品が設置されるため、審査ユニットによって適切な審査方法は異なります。リーダーを中心に審査方法を協議し、適切な方法で審査を行ってください。なお、審査においては必ず「合議によって合否の決定」を行ってください。以下に通常想定される審査方法を示します。

#### 1. 応募対象の確認および個別投票

各審査委員は個別に応募対象現品またはその代替物と応募シートを確認し、優れたデザインと認める対象に投票を行います。

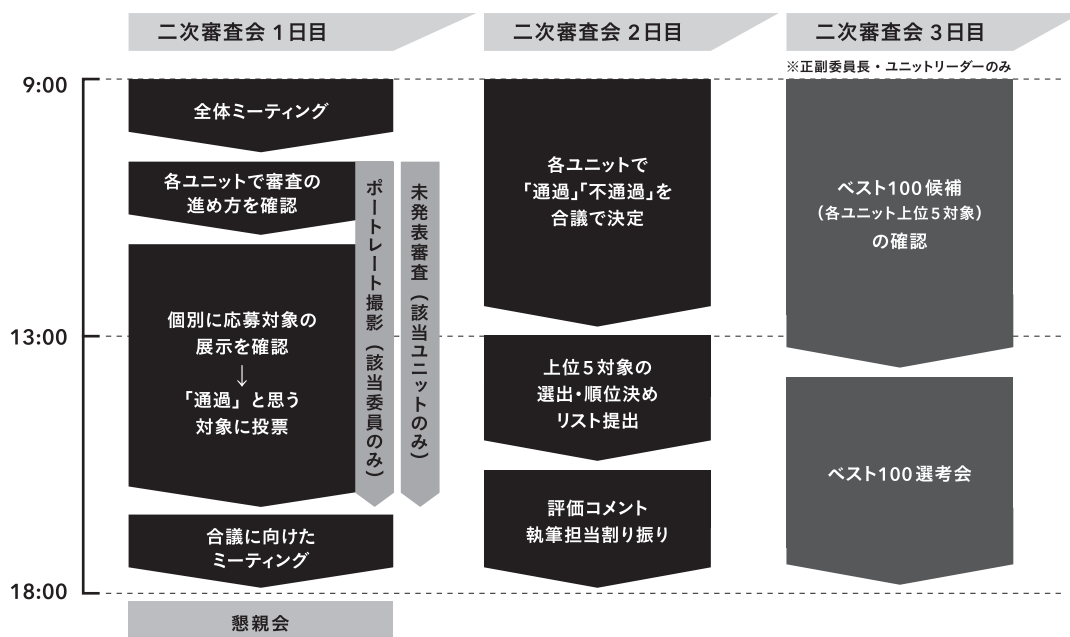
#### 2. 合議による合否の決定

個別投票結果を踏まえ、リーダーを中心にディスカッションを行った上で合否を決定します。

#### 3. グッドデザイン・ベスト100候補の選定

二次審査会の結果を踏まえ、リーダーを中心にディスカッションを行った上でグッドデザイン・ベスト100候補の選出を行います。

## 二次審査の流れ



### 特別な審査

二次審査会では応募対象の特性に合わせて様々な審査を行います。以下に示したものの以外であっても、必要な場合は自由に審査を設定できます。

#### 1. 未発表審査 応募者の希望による

グッドデザイン賞では二次審査会の段階において開発途中（発売前等）の製品であっても応募することができます。応募者の希望があった場合、情報が漏えいしないように機密性の高い別室で個別に審査を行います。なお、通常応募対象との公平を期すため、未発表審査における応募者からの説明や質疑応答は行わないこととします。個別の説明や質問がある場合には、通常応募対象と同様に、事前に事務局を通じて応募者より情報収集を行ってください。

#### 2. ヒアリング審査 審査委員の要望による

応募された対象についてより深く理解するため、審査委員会が必要とする対象を指定して、応募者に説明またはプレゼンテーションを求める「ヒアリング審査」を実施することができます。ヒアリング審査を実施する場合は、二次審査期間内に実施します。応募者の希望や申請に基づく実施はありません。ヒアリングは原則として、オンライン（zoom）で実施します。

#### 3. 現地審査 審査委員の要望による

現品の展示が困難な対象のうち、各審査ユニットの合議において「現地に行き、実際に確認をした方がよい」と判断されるものがあります。この場合、各審査ユニットより現地審査を応募者に要請し、実物を確認する審査を実施することができます。現地審査を実施する場合は二次審査期間内に応募者と調整を行った上で、実施します。

### ベスト100候補の選定および確認方法

#### 1. ベスト100候補の提出

ベスト100候補について、以下のルールに基づいて順位づけを行った上で「ベスト100候補連絡票」に必要な事項を記載し、提出を行います。ユニットの上位5件は、原則として必ずベスト100に入るものとし、上位1件は原則として金賞に選出されます。金賞にふさわしいと思われる理由やどこを特に優れたデザインとして評価したのかを、ユニット内で明確にしてください。また、2位～6位の対象の中で、グッドフォーカス賞各賞にふさわしいと思われるものがあればフラグをつけ、その理由を明確にしてください。

##### (記入方法)

リスト上位から「ベスト100に相応しいと思われる順」に「審査番号・応募対象名」を記載します。各審査ユニットから選出できるベスト100候補は5件を上限とします。必ず1位～5位の順位をつけてください。1件の予備をリストに記載してください。

## 2. ベスト100候補の確認

二次審査会3日目に、審査委員長および審査副委員長、各審査ユニットのリーダーは、二次審査会場内に展示されているベスト100候補の現物確認を行います。

### ■ グッドデザイン・ベスト100選考会 正副委員長・リーダーのみ

二次審査会において各審査ユニットで提出した「ベスト100候補」をもとに、グッドデザイン・ベスト100を選定する会です。

お  
願  
い  
事  
項

#### 1. グッドデザイン・ベスト100の選定および特別賞候補の確認

参加者全員のディスカッションにより「グッドデザイン・ベスト100」を決定します。そのうえで、各審査ユニット・トップの対象を金賞候補とする確認、グッドフォーカス賞各賞のフラグがつけられた対象から、各賞の候補を選定してください。

ベ  
ス  
ト  
1  
0  
0  
の  
選  
出  
方  
法

グッドデザイン・ベスト100は以下の手順によって選出します。

#### 1. 各審査ユニットにおける順位づけの確認・調整

事務局はベスト100選考会が開始される前までに、選考会会場の壁面に全審査ユニットのベスト100候補について、順位づけを順守した上で掲示を行います。各審査ユニットのリーダーは壁面に掲示されたベスト100候補を一覧し、全体のバランスを確認します。

#### 2. 各審査ユニットの上位5件の確認およびベスト100の内定

すべての現物確認の終了後、全審査ユニットから提示された上位5件についてベスト100内定の確認を行います。このベスト100内定について異議のある場合には、挙手により申し立てを行い、合議を行います。異議の生じた対象については、合議後に挙手により採決を行います。異議が同数であった場合は、審査委員長の権限により決定します。特に異議がない場合、これら上位5件はそのままベスト100として内定します。ただし、最終的な決定手続きは「取り下げ・失格」などの事由が生じた場合に備え、以降の補欠候補選考も踏まえて行われます。

#### 3. 各審査ユニット・トップ（グッドデザイン金賞）の内定

各審査ユニットの上位5件のうち、1位にランクされた応募対象は「審査ユニット・トップ」として、原則としてグッドデザイン金賞に内定します。2026年度は審査ユニットが20あるため、合計20件のグッドデザイン金賞が選出される見込みです。

#### 4. 補欠候補の選出

各審査ユニットは、上位5件のほかに「補欠候補」を1件リストアップしてください。なんらかの事情で内定取り消しとなる応募対象が出た場合、そのユニットの6位がベスト100に繰り上がりとなります。なお、ベスト100は合計100件、各審査ユニット・トップ（グッドデザイン金賞候補）合計20件が選出されますが、この段階ではいずれも「内定」にとどまり、特別賞審査会を経て正式に決定します。

#### 5. グッドフォーカス賞候補の選出

各審査ユニットの上位2位～6位の対象について、グッドフォーカス賞各賞の選出基準に鑑みて候補を選出します。各賞の候補はおおむね10件以内とします。

### ■ 事務局による判定結果の確認

二次審査判定会の結果について、事務局がその妥当性を確認します。審議事項が生じた場合には、各審査ユニットで再度協議を行います。

## ■ 二次審査判定会 正副委員長のみ

二次審査会において各審査ユニットで出した審査結果について最終確認し結果を確定します。

お  
願  
い  
事  
項

### 二次審査の合否確認

各審査ユニットで出した合否結果を改めて見直し、その合否に間違いがないかを確認してください。異議がある場合は、当該審査ユニット・リーダーと合議の上、合否を決定してください。これと同じ要領で事務局からの審議事項についても最終的な判断を行ってください。

## ■ 特別賞審査会 正副委員長・リーダーのみ

### 第一部：グッドデザイン大賞の選出

各審査ユニット・トップに選ばれたグッドデザイン金賞候補20件の中から、グッドデザイン大賞1件を選出します。

選  
出  
方  
法

#### 1. グッドデザイン金賞候補者によるプレゼンテーションの聴講および質疑応答

オンライン会議システム「Zoom」を通じて、グッドデザイン金賞候補20件のプレゼンテーションをリアルタイムで聴き、質疑応答を行います。

#### 2. グッドデザイン金賞の確定

グッドデザイン金賞候補20件のプレゼンテーションをふまえて、授賞の妥当性を確認します。異議がある場合は、挙手により申し立てを行い、議論を行います。その後、挙手により採決を行います。変更が生じた場合は、各ユニットのトップが差し替えられます。なお、各ユニットのトップは必ずグッドデザイン金賞となります。

#### 3. グッドデザイン大賞の選出

グッドデザイン金賞に確定した20件の中から、グッドデザイン大賞1件を選出します。大賞選出にあたっては、選出基準にもとづき投票を行います。最多得票を得たものをグッドデザイン大賞として決定します。同率になった場合は、合議の上、決選投票を行い決定します。

#### 4. 経済産業大臣賞候補の選出

グッドデザイン金賞19件の中から、3件以内で経済産業大臣賞の候補を選出します。選出にあたっては、選出基準に基づき投票を行います。得票数の上位3件以内の経済産業大臣賞候補として内定します。

### 第二部：グッドフォーカス賞各賞の選出

グッドデザイン・ベスト100のうち、グッドデザイン大賞・グッドデザイン金賞を除く80件を対象に、グッドフォーカス賞各賞を選出します。

選  
出  
方  
法

#### 1. 候補対象のプレゼンテーション動画視聴

ユニットリーダーは、事前に割り当てられた担当賞ごとにグループに分かれ、候補対象のプレゼンテーション動画を視聴します。

#### 2. 賞の選出

視聴後、各賞の選出基準にもとづき、グループ内の合議によって受賞対象を3件以内で選出します。

#### 3. 選出結果の共有

全グループが一室に会し、各グループの選出対象と選出理由を全体に向けて発表・共有します。

#### 4. グッドフォーカス賞の決定

各グループの選出結果を共有後、審査委員長・副委員長の了承をもってグッドフォーカス賞を決定します。

#### **グッドデザイン大賞**

その年を象徴する革新性や波及力が格段に高いデザインであり、今日の社会が求める最も秀でたデザインであると認められるもの

#### **グッドデザイン金賞**

概念や技術、品質等において、先進性と社会性を兼ね備えた、現在における極めて優れたデザイン (Best of Best) と認められるもの

#### **経済産業大臣賞**

グッドデザイン金賞の中で、わが国の経済の発展に寄与すると特に認めるもの

#### **グッドフォーカス賞【新ビジネスデザイン】**

新たなビジネスモデルや新産業の創出、イノベーションの促進に寄与する優れたデザインとして特に認めるもの

#### **グッドフォーカス賞【技術・伝承デザイン】**

中小企業の高度な技術や技能によって実現された、特に優れたデザインと認めるもの

#### **グッドフォーカス賞【地域社会デザイン】**

地域社会の持続的発展や経済の活性化に特に寄与するデザインと認めるもの

#### **グッドフォーカス賞【防災・復興デザイン】**

自然災害への防備または自然災害による被害からの復興に対して寄与する優れたデザインとして特に認めるもの

なお、上記以外の賞を新設する場合があります。

## 4-4. 評価コメント等の執筆

審査委員の皆様からいただくコメントは、応募者・受賞者にとって大いに励みになっています。また、デザインとしてどこが優れていたのか？その価値や可能性を社会に伝え共有していくための重要な情報となります。二次審査会時に各審査ユニットで割り振られた担当分に対してコメントの執筆をお願いします。

お願い事項

### 1. 評価コメントの執筆（必須）

1 受賞対象につき 200 字程度の評価コメントを執筆してください。評価コメントの多くは受賞した企業のプレスリリースやその他広報にも使用され、またグッドデザイン賞のウェブサイトに掲載され広く公開されます。

### 2. アドバイスコメントの執筆（任意）

1 対象につき 200 字程度のアドバイスコメントを執筆してください。アドバイスコメントは一般には公開されず、応募者にのみ通知されます。

## ■ 評価コメント 執筆ガイド

以下のポイントをふまえながら評価コメントをまとめていただくことで、読み手にわかりやすく、デザインの本質的な魅力や意義が十分に伝わる内容になるかと存じます。審査委員の皆様のご知見やご経験を生かした、より充実したコメントをお寄せいただければ幸いです。

### ● 評価コメントの意義

- 具体的に「この対象の何が・どう良かったのか」をわかりやすく伝えることで、評価されたポイントをより深く知ることができます。
- 第三者による評価があることで、客観的なその対象の「良さ」を伝えることができます。
- 個人の感想ではなく、あくまでも「審査委員会」としてのお立場で、受賞デザインの良さを広く社会に共有する機会となります。

### ● 評価コメントの目的

1. 気づきを共有できる 「なるほど、そんな見方があったのか！」  
他の人の視点で見ると、自分では気づかなかった良さが見えてくる
2. 次につながるヒントになる 「ここが評価されたんだ、次はこうしてみよう」  
良かったポイントがわかれば、次の目標も見えてくる
3. 価値を「見える化」できる 「なんとなく良い」から「ここが具体的に良い」に変わる  
曖昧な印象を、具体的な言葉にできる

### ● 評価コメントご執筆の際にご参考いただきたい4つの視点

#### • 「今はどんな状況？」を説明する

受賞対象が生まれた背景や社会的・産業的な文脈を簡潔に示すことで、デザインが取り組んでいるテーマや課題が明確になります。

#### • 「どんな問題があるのか？」を示す

その背景の中で、どのような課題を解決しようとしているのかを伝えます。課題の所在がはっきりすることで、デザインの目的や意義がより際立ちます。

#### • 「何が良かったの？」を具体的に書く

デザインの優れたポイントや評価すべき特徴を、具体例を挙げながら丁寧に説明します。

独創性や使いやすさ、問題解決への貢献など、評価の裏付けとなる要素を挙げると説得力が増します。

- 「これからどうなりそう？」を伝える

このデザインがもたらす可能性や、今後の社会や利用者にとってどのような良い影響が期待されるかを示します。将来性や波及効果などの展望を述べることで、デザインの価値が一層深く理解されます。

- 避けていただきたいポイント

- 主観的な感想だけで終わらせない

「優れている」「素晴らしい」などの感覚的な表現を用いる場合でも、なぜそう感じたのか、具体的な根拠や評価の観点を示すことで、コメントに説得力が生まれます。

- 応募資料に書いてある情報の繰り返しで終わる

評価コメントは、応募対象の基本情報とともに掲示されますので、応募対象に関する過度な説明は不要です。ご自身の視点や評価軸を付け加え、オリジナルの見解を示すことで、コメントの価値が高まります。

- 必要以上に否定的な部分を強調する

改善点を述べる際は、今後の伸びしろや期待感につながる前向きな意図が伝わるよう配慮してください。

- 参考例：2024年度グッドデザイン金賞受賞

「介護用洗身用具 スイトルボディ SWB-1000JP」の評価コメント

- ① 本製品は、ベッドに寝たままシャワーを浴びることができ、  
介護における洗体の問題に画期的な解決を提供している点が高く評価された。
- ② 介護者不足や老老介護が社会問題となるなか、
- ③ 介護者一人で簡単に洗体が行えるため、  
施設だけでなく自宅においても暮らしの質を大幅に上げることが期待できる。
- ④ 介護施設での複数台の使用を考慮し、  
重ね置きが出来たり、ホースと一緒に収納できたりと、  
現場での知見が、誠実に丁寧にデザインに落とし込まれている。

解説：①において具体的に解決された課題の言及、②においては背景の説明、③では今後の可能性や影響についての展望が示され、④ではデザインの優れたポイントを示しています。

## ■ ユニット総評執筆ガイド **リーダーのみ**

ユニット総評とは、その年の審査を通じて見えてきた、そのユニットにおける特有の傾向や、当該ユニット独自に見出された評価のポイント、気付きなどを総合的にまとめていただく文章です。約800文字を目安に、ユニット審査において審査委員の皆様が得た知見や着眼点を共有いただくことで、審査結果の背景が深く理解されることを目的としています。

### ● ユニット総評の目的

#### ・ ユニットのトレンドを可視化する

その年の応募対象を通じて浮かび上がったテーマや社会的な課題を、ユニットごとにまとめることで、より大きな視点からデザインの動向をとらえることができます。

#### ・ 審査の視点を共有する

ユニット特有の審査観点や、評価の際に重視した要素を言語化することで、今後の応募者や他の審査委員、さらには一般の方々「デザインを見る視点」を学ぶきっかけとなります。

#### ・ 次のステップへのヒントを提供する

審査を通じて見えてきた「今後の可能性」や「現状の課題」を示すことで、社会や産業界が次に取り組むべき方向性、あるいはさらなる実践の可能性を提示できます。

### ● ユニット総評執筆のポイント

#### 1. 全体像を示す

その年の応募対象の傾向や共通する要素、特徴的だった事例などを概観してください。特に、ユニットならではの分野特性がある場合は、それがどのように表れていたかを述べていただくと効果的です。

#### 2. 評価の視点・ポイントを具体化する

そのユニットが重視した視点や評価項目を、いくつかのキーワードや事例とあわせて示すことで、「どんな理由で高評価に繋がったのか」を理解しやすくなります。逆に、どのようなものは評価できなかったのかも、具体名は出せませんが、キーワードや事例として挙げていただくと、受賞に至らなかった応募者の参考になります。

#### 3. 発見や気付きを共有する

審査過程で得られた新たな発見、驚き、あるいは課題などがあれば、その具体的なエピソードやデザインの特徴を交えてご紹介ください。

#### 4. 今後への示唆や期待を示す

ユニット全体として感じた「今後の方向性」や「社会的な広がり」「さらなる発展への期待」など、前向きな視点を添えていただくと、より発展的なメッセージとなります。

#### ● 参考例：2024年度ユニット02 パーソナルケア用品のユニット総評

ユニット2はパーソナルケア用品のユニットとしてウェルネス、衛生、美容、育児、福祉、介護用品などが主な審査対象である。本年も多様なエントリーがあったが、審査会で共通して議論となったのは「ケア」そのものの質や、その射程の広さであったように思う。

ケアとは、個人主義的なものではなく、誰かを思いやり、共感し、支援するという他者との関係性や、その先にある社会的責任、倫理的な関わり方を含む包括的な概念である。今年、特に評価を集めたものも、見つめる視線の先に、個人と社会の双方に潤いをもたらす、より人間的で持続可能な社会を築くことを見据えるものであった。

介護用洗身用具スイトルボディ (24G020096) はその好例である。高齢者介護で負担の大きい入浴に着目し、ベッドで洗体を可能にするという現場に寄り添った新しい選択肢を提案している。毎日を清潔に過ごすという、人として当たり前の欲求を、多くの人が当たり前に満たせる意義は大きい。社会問題となっている介護従事者の不足や老老介護への負担も軽減し、高齢化社会における生活の質の向上に寄与することが期待される。無印良品のスキンケア敏感肌用シリーズのリニューアル (24G020060) では、処方天然素材へアップデートするだけでなく、自社でボトルの回収、再生、製造を一貫して行い、ライフサイクル全体をリデザインしている。使用者の美しさと、環境全体の美しさを同時にケアする視点は、人間と自然とは本来一体であることを思い出させてくれる。また、「ふるさと元気プロジェクト」(24G020105)や「明日わたしは柿の木にのぼる」(24G020104)といった地方の天然素材を活用した取り組みは、地域資源を再発見し、その実りを循環させることで、地域経済の活性化に貢献するものだ。

これらのプロジェクトは、デザインを通じて個人と社会の間に新たな関係性を築き、相互のケアを促進する意義深い例となっている。個人の勇気や思いやりが社会を支え、同時に社会が個人を支える。個人と社会が有機的に、相互依存的にケアしあう関係性に、持続可能な未来の姿が浮かび上がってくる。デザインがそこに大きく貢献できることを、本年度の受賞作は示してくれている。

#### 4-5. 受賞祝賀会への参加

グッドデザイン賞受賞者の受賞をお祝いする会です。

お  
願  
い  
事  
項

##### 1. 受賞祝賀会への出席

受賞者へのお祝いの言葉やコメントをお伝えいただくとともに、受賞者との積極的な交流をお願いいたします。

#### 4-6. その他

##### ■ その他 特記事項

##### 1. 審査委員長判断による方法の変更について

上述したプロセスおよび方法について何らかの問題が生じた場合、または他の最適な方法が提案された場合など、現場の状況を鑑みた上で審査委員長の判断により変更が行われる場合があります。

## 5 審査委員会推薦

審査委員会推薦制度は、よいデザインを顕彰するために審査委員会の見識をもって応募を呼びかける制度として、2019年度より実施しています。これは、審査委員が主体的に「グッドデザイン賞の応募を通してさらなる評価や機会が期待されるのではないか」と考える優れたデザインを見いだし、応募を促す仕組みです。

ただし、応募候補の提案から正式な推薦対象となるまでに、下記のプロセスを経る必要があります。審査委員の皆様には、各段階においてご協力いただきたいことがありますので、ご確認ください。

### 【審査委員会推薦のルール】

#### 1. 推薦可能な対象

グッドデザイン・ベスト100に選定されうる優れたデザインであると審査委員会がその見識をもって推薦できるもの。ただし、審査委員自身がデザイン・コンサルティング等関与した対象を自薦することはできません。

#### 2. 推薦された対象の取り扱い

「一次審査判定会議」において、推薦された対象を審査する審査ユニット内で検討し、当該審査ユニットで審査委員会推薦に値すると判断される対象を4件以内で選定します。審査委員長・審査副委員長は、各ユニットから挙げられた候補を確認し、「審査委員会推薦」対象を確定します。

#### 3. 推薦により応募された対象の審査

審査委員会推薦となった対象について、事務局より応募勧誘を実施します。推薦により応募された対象は一次審査を通過したものとみなし、二次審査会から参加します。

なお、推薦により応募された対象であっても、二次審査は通常の実応募対象と同等に審査します。

#### 4. 費用

推薦により応募された対象は、二次審査料および受賞パッケージ料を免除します。

(展示の特殊なオプションを除く)

### 【審査委員会推薦のプロセス】

#### ① 一次審査期間における「審査委員会推薦候補」のリストアップ

時期の目安：オンライン一次審査期間(6月上旬)

お  
願  
い  
事  
項

「グッドデザイン・ベスト100に選出されうる水準」であると考えられるデザインを専用登録フォームを通じてご提案ください。

※未応募のものを挙げてください。すでに「通常応募」された対象は、審査委員会推薦対象とはなりません。

※この段階では、まだ「審査委員会推薦対象」にはなりません。

事  
務  
局  
の  
対  
応

各審査委員から寄せられた候補を審査ユニットごとに整理し、一次審査判定会議に備えてまとめます。

## ② 各審査ユニットにおける協議・推薦候補の最終選定

時期の目安：一次審査判定会議当日

お  
願  
い  
事  
項

1. 一次審査判定会議において、審査ユニットごとに「審査委員会推薦候補」としてリストアップされた対象を検討し、「審査委員会推薦対象」にふさわしいかどうかを協議します。
2. 協議の結果、各審査ユニットは最大4件を「審査委員会推薦対象」として選定します。

事  
務  
局  
の  
対  
応

選定された「審査委員会推薦対象」に対し、事務局から公式に「審査委員会推薦として応募しませんか」と勧誘します。  
この勧誘を受け、応募者が実際に応募手続きを行った場合に、はじめて「審査委員会推薦対象」として正式に取り扱われます。

### 応募者へのご連絡について（審査委員の皆様へのお願い）

審査委員会推薦では、公正かつ円滑に進めるために、審査委員から応募者へ直接連絡することはご遠慮いただいております。以下の点にご協力をお願いいたします。

#### 1. 「推薦に挙げた」等の直接のご連絡はお控えください

個別に「あなたを推薦候補に挙げました」「事務局からの連絡を待ってください」などを伝える行為は、誤解やトラブルの原因となる場合があります。

連絡は原則として事務局が行いますので、審査委員の皆様は事務局への情報提供にとどめていただけますようお願いいたします。

#### 2. 特別な事情や疑問点がある場合は事務局へ

応募者から直接照会を受けた場合や、ご不明点・特別な事情がある場合は、まず事務局にご相談ください。

上記のプロセスを通じて、優れたデザインをより多く発掘し、公平な審査と円滑な推薦手続きに努めてまいります。

## 審査委員会推薦スケジュール

